

# 平成20年度 和歌山県名匠

## 【紀州桐箆筥製作】

にし はた たけし  
西 畑 猛

【現住所】和歌山市

【生 年】昭和14年

### 業績及び経歴

15歳で和歌山市の中弥木工に入社し、紀州桐箆筥の製作を始め、以来53年間、この道一筋に専念してきた。現在は、昭和36年に入社した和歌山富士木工の工場長として指導的役割を果たしている。

紀州箆筥は、江戸時代末期には現在の和歌山市において箆筥の製造技術が確立し、生産が行われていたと考えられており、昭和62年には「伝統的工芸品」として国の指定を受けている。

美しい製品に仕上げるためには、材料となる、年輪の細くそろった美しい桐の柾目材が必要であり、それを選別する目は特に厳しい。また、造材、板加工、組立といったすべての製造行程に精通し、手仕事で行うとともに、新旧両方の技術技法を用いて、すばらしい製品を製作している。かつての、機械がなく道具だけで製作していた時代の手技は、現在では極めて貴重な匠の技であり、そうした技術を持った職人は数少なくなってきている。

平成3年には、中心的役割を担い製作した紀州桐箆筥が、科学技術庁長官賞を受賞している。また平成6年には、財団法人伝統的工芸品産業振興協会による伝統工芸士の認定を受けている。

県外において、製作の実演や製品説明を積極的に行い販売促進に尽力しているほか、全国家具コンクールに参加出品するなど、紀州桐箆筥の産業振興に多大な貢献をしている。また、周囲の信頼も厚く、多くの伝統工芸士を育てるなど、後継者の育成指導にも力を発揮している。こうした功績が認められ、平成19年には、財団法人伝統的工芸品産業振興協会から伝統的工芸品産業功労者褒賞を受賞している。